

## 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4093300046		
法人名	医療法人社団 原道会		
事業所名	まりしの郷里 みち		
所在地	福岡県宗像市東郷6丁目2番19号 (電話) 0940-36-2625		
自己評価作成日	平成 25 年 4 月 1 日	評価結果確定日	平成 25 年 5 月 30 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

その人らしい生活を送れるよう、心からのケアに努めている。一人ひとりに寄り添い、個々の違いを見極めて、その人の身になり、その人らしい生活を目指して、いつでも声が聞こえ、手が届き、本当の我が家と思ってもらえるように支援している。入居者を中心において、現有能力に着目し、生きる自信を持って頂き、その機能を活かせる援助を心がけている。1日を楽しく安全に過ごしてもらえるように、職員はいつも笑顔をやさずに入居者に接している。また、ご家族との絆が途切れないように、ご家族とのコミュニケーションを大切にしている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成 25 年 4 月 18 日		

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、フローリングと畳を併用する和洋折衷の作りで落ち着いた造りとなっており、共用空間や居室は広く設定され重厚さも感じる。入居者の意見を取り入れた工夫も見られ、野に咲く季節の花を随所に取り入れたヒーリングの効果を感じる。家族会が充実しており、入居者のひ孫等の参加もみられる。また、“まりしふれ愛”祭りなども開催され、介護の講演や娯楽も行われるなど地域の重要な核となっている。介護計画の作成においては、ケアプラン実施表を作成して入居者の状況を毎日チェックし介護支援を行っている。重度化や終末期に向けた取り組みについても医療との連携をとっている。事業所の職員の休日が月平均10日の設定であったり教育支援なども充実する等働きやすい職場環境づくりにも努めている。

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【 I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「今、ここにいる喜び」を感じながら生活していただき、一人ひとりのペースに合わせて寄り添うように、理念と7つの基本方針を定め、毎日朝礼で確認している。 また、日々のケアの中で対応に困った時には、理念に立ち戻ってケアプランを作成し、実践している。	グループホームには法人全体の理念のほかに事業所独自に地域住民の一員としての生活の継続を目指す基本方針を有している。地域との関係強化を目指して地域住民へ積極的な声かけ等を実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議において地域の行事や活動予定の紹介を受け、できる限り参加している。また、事業所の祭りや防災訓練などに参加していただけるよう、近隣の方々に声を掛けたり、コミュニティの代表や民生委員の方に地域住民への伝達を依頼している。地域の自治会に加入し、地域の情報を得て、運営に反映している。	秋祭りの子供みこしの休憩場所として敷地を提供し、担ぎ手の子供達に御賽銭やお菓子の提供を行うなど、地域への行事参加に積極的である。保育所のお遊戯会や中学校の職場体験などによる交流や、毎年母体法人と協同開催される“まりしふれ愛”祭りが盛況開催されている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等の際に、認知症の話をしたたり、事業所のイベントの際に認知症の講演等を行い、地域に向けての情報を発信している。また、実習生の受け入れを通して地域への研修の一環としている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施し、事業所から報告を行なうと共に、出席者から意見・要望を聞いて、サービス向上に活かしている。 委員からの意見を参考に、実際に行事に参加して頂き、日常のサービスの状況や利用者の様子などを見ていただいた。 研修会で発表した事例研究を聞いて頂き、評価を受けている。	2ヶ月に1度、家族会代表・民生委員・地域包括センター職員・学識経験者の参加により開催され、利用者やサービスの現状報告、評価への対応が話し合われている。また、会議での提案により委員が防災訓練に参加し、その後意見交換を行う等活用している。	
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者と密に連携を図り、積極的な情報提供を行い、その情報を共有することで、課題解決に向けた協働を行なっている。 また、事業所間の連絡会議にも、市の職員に参加してもらい、情報の共有に努めている。	地域の関連業種17事業所が市の介護保険課と連携して“密着ネット”を立ち上げ、2ヶ月に1度行政との意見交換を行い、事業所の実情報告やサービスの向上に向けての協力関係を構築している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理念やケア方針を通じて、身体拘束をしないケアを実践している。困難なケースを検討する際にも、十分に話し合いながら取り組んでいる。また、玄関は夜間のみ施錠し、ご家族も自由に出入りできるように配慮している。危険防止のために、センサーマットを使用している。	身体拘束をしないケアに関する外部研修を年間計画として毎年1回参加し、その伝達研修も行われている。毎日午後3時に行われる職員間の茶会や月1度開催されるミーティングにおいても適時議題として取り上げて検討している。テキストや研修記録がある。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	講習会等に参加し知識を得ると共に、ミーティング等で全職員に周知徹底を図っている。また、入浴時等の観察や入居者の様子から、発見・防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	積極的に講習会等に参加し、理解を深めている。施設内で勉強会を行ない、周知徹底している。入居者には入居時にパンフレット等を用いて説明し、入居後は必要に応じて個別に説明している。	権利擁護に関する制度の説明は入居時に行われ、家族会でも説明を行っている。外部研修へ年1回の参加と伝達研修が行われているほか、内部研修や月1回開催のミーティングでも適時制度の理解を深める取り組みがなされている。	
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項に合わせ十分に説明し、納得・同意を得ている。又、質問などには随時応じている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者・家族の意見・不満・苦情は、スタッフ間の連絡ノートに記入し、スタッフ全員に周知し、カンファレンス等で検討している。また、外部の苦情相談窓口を、契約時には契約書でお知らせし、掲示板に常時掲示し、家族会の際にもお知らせしている。また、御意見箱を設置し、匿名の苦情も受け付け、その都度、検討している。	家族会や利用者、家族から個別に出された意見の反映が行われている。一例として骨折した入居者への入浴介助を職員が二人で取り組む要望等に応じている。家族会の活動が活発であり、3ヶ月に1回開催されており、入居者のひ孫含め、多い時には参加者が30人になる時がある。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングと、月1回の全体ミーティングで、意見を吸い上げ、運営に反映している。また、休憩時間等に随時相談を受けたり、定期的に個人面談を行っている。	自己評価は、前年度の外部評価、自己評価を原案にして職員全員の意見を聴取して作成される。施設長の個人面談や職員間で開かれる茶会等で職員の意見を聴取している。意見の反映事例としては補助便座の導入やトイレ掃除の担当の早出勤務者から遅出勤務者への変更の提案が取り入れられている。	
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務希望は、可能な限り尊重し、働きやすい環境を作っている。また勤務現場の状況を、随時経営者に報告し、待遇改善につながるよう働きかけている。ミーティング等で現場の意見を吸い上げ、行事や日々のケアに反映させている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生ききとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	人権の尊重や公平性を意識して、採用に当たっている。また、個々の特徴や個性にも目を向け、介護の持つ専門性や人と人との関係性なども考慮している。職員の特性を把握して配置転換も含めた本人の適性に合った仕事環境を考慮している。また、社会参加や自己実現を図れるような機会作りを重視している。	職員の年齢構成は24歳～62歳、男女構成は男性3名、女性5名で定年は65歳である。勤務者全員が正職員である。キャリアアップへの支援も積極的で、資格獲得時には資格手当が給与に反映される等意欲的に働ける職場を目指している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	市や保健所の人権問題に関する講習会に参加し、その研修内容を勉強会等において職員に周知徹底している。	年間の研修計画が作成されており、年1回の外部研修に参加し、伝達研修や内部研修も行われている。参加できなかった職員に対しては研修内容が文書で伝達され、疑問点にも答えている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規採用に際しては内部で新人研修を行なうと共に、段階に応じて外部の研修に参加の機会を設けている。各職員に対しても基本的介護チェック表を用いて、定期的に職員の力量を把握し、指導している。また認知症に関する教育も、職員のレベルに合わせて、段階的・計画的に行なっている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型連絡協議会等において、交流を深めている。また、事業所間で相互に勉強会などの案内を行ったり、共同して勉強会や研究発表会を行なうなど、サービスの質の向上に努めている。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談を重ねて、本人の状況を把握するように努めている。また、申込書にも詳しく記載してもらい、現状把握を行なっている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人同様に、事前面談を重ね、不安や要望を聞きだす機会を設けている。また、家族が求めているものを理解し、ゆっくり話を聞き、次の相談に繋げている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際に、提供可能なサービス内容を具体的に説明し、地域密着型サービス以外の介護サービスとの比較も説明している。面談の際には、入居者との関係を重視して、職員が本人に受け入れられるよう努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する・介護されるという関係ではなく、共に支え合うという関係を築く努力をしている。また、お互いの思いを共感し合えるよう入居者への相談の形をとったり、お互いが必要な存在であることを伝え、コミュニケーションを図っている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連携を図り、家族と事業所お互いが支え合う存在であることを認識してもらおうよう、取り組んでいる。また、家族とよく話し合い、お互いの介護に対する方針を統一している。3ヶ月に1回家族会を行ない、家族同士の交流の場としている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで本人が築き上げてきた人間関係を把握し、日常の話題の中に入れるように努めている。昔から利用している美容室に行ったり、面会者が来た際などにも、継続的な交流ができるよう働きかけている。また、電話や手紙などで、今までのつながりが継続できるように支援している。	母体法人の病院通院者やデイサービス利用者に対し、馴染みのあるグループホーム利用者への訪問を働きかけ、支援している。その他、馴染みの美容師の訪問によるカットを利用している入居者もいる。	
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を日々の観察から把握し、その情報を職員が共有できるよう努めている。また、精神状態等により、関係性が変化するので、食事やお茶の時間等に職員も一緒に会話をもち、席の配置にも配慮している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も、本人・家族と連携を取りながら、必要な情報を発信するよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人からの聞き取りや、それが困難な場合には家族からの聞き取りや、入居者の様子の観察から本人の出来ること・わかることの把握に努めている。また、本人の気持ちを尊重し、できるだけ個性のある支援を行っている。	日々の関わりの中で思いや希望、意向等の把握に努めている。また、利用者の表情などから非言語による意思表示の読み取りを行い、職員間での情報交換等も行われている。外出に関する要望の把握とその実現へ向けた検討や、服が合わなくなったので好きな色合いの洋服が欲しいという利用者の思いを把握し家族に購入してきてもらった事例がある。	
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始前の、家族・ケアマネジャー等からの情報を参考にし、入居後は普通の会話や日常生活を観察しながら、共に暮らすという視点で情報収集に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式アセスメントシートを活用し、系統的に暮らしの現状を把握している。またできること・できないことを把握し、できることを一緒に行なっていくように取り組んでいる。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向を把握し、担当職員を中心に、全職員のカンファレンスの中で協議し、また主治医の意見なども参考にしながら、介護計画を作成している。また、日々の様子や本人や周囲の状況などのモニタリングを行い、変化が生じた際には、その都度アセスメントを行なって、介護計画の見直しを行なっている。	見直しは基本的に6ヶ月毎に行い、状態の変化があれば、その都度対応している。担当者やケアマネジャーで原案を作成、きめ細かいモニタリングも参考にしながら担当者会議に提案し、家族にも来てもらい意見を聞いている。ミーティングで他の職員の意見を聞き完成させ、その後、家族に説明し、署名・押印をもらっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌・個別支援記録等に記入し、日々の気づきや取り組みの結果を、介護計画の作成に反映させている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制を活かして入居者にとって負担となる受診や入院の回避・早期退院の支援・医療処置を受けながらの生活の継続、重度化した場合や終末期の入院の回避に努めている。また、家族の状況に応じて、通院・送迎等の支援を行っている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の小・中学校や高等学校の行事の見学や、地域のお祭りなどへの参加、芸術鑑賞等で文化施設を活用している。また、運営推進会議等において、民生委員など地域の方々に協力を要請している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望したかかりつけ医を優先している。本人・家族の了承を得て、かかりつけ医の受診には定期的に行き、情報交換や緊急時の対応等の確認を行ないながら支援している。	従来のかかりつけ医、希望の病院を優先している。現在、母体法人の摩利支病院からの紹介が多く、ほとんどの利用者は摩利支病院を利用している。歯科や眼科、精神科などは他の病院を利用している。通院は家族の付き添いを原則とし、情報の提供と結果報告は受診ノートなどで必ず伝達できるシステムを作っている。	
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師を配置し対応している。また、協力医療機関の看護師とも連携を取り、必要時には随時、医療・看護の支援ができる体制を整えている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院と密に連携をとり、入院時には十分な情報提供を行っている。また、入院中においても情報収集に努め、早期退院に向けた働きかけをしている。入院中はこまめに面会に行き、本人の安心を得ると共に、馴染みの関係が途切れないように努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や看取り支援の指針を持ち、本人の状態に変化が生じた段階で、本人・家族の意向を聞き、主治医等と相談し、全員で方針を共有するように努めている。	重度化や終末期に向けた事業所の指針をもって明文化している。入所時に本人・家族に説明し、同意書に署名・押印をもらっている。必要な時期に家族、職員や医師を含めた委員会をつくり、具体的な看取り計画を立てて対応している。職員は新人研修を含め、看取りケアの研修を受けている。家族の希望で関連病院に移るケースが多いが、支援体制は整っている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを備えると共に、急変や事故発生時の対処方法・救命救急法等の学習や訓練を定期的に行なっている。また、夜間人手が少ない時の応急手当から、その後の連絡、対応方法についても想定し、それらを職員が身に付けるよう、研修・訓練を行なっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災予防のための注意事項を事務所に貼り出した。日中・夜間を想定した防災訓練等を行なうことで、職員の防災意識を高める取り組みを行なっている。運営推進会議等で、地域の方々や防災訓練等に参加していただけるよう、協力を依頼している。災害時には母体の病院からの協力を得ることができるよう、共同での防災訓練を行なっている。	マニュアルがあり、年2回の防災訓練を系列の事業所、母体法人与合同で実施している。消防署の協力を得て避難経路や避難場所の確認、夜間対応訓練も実施し、運営推進委員の参加もある。非常用備品は事業所内に確保しており、職員にも周知され把握している。	
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常日頃から入居者の尊厳を大切にしている。又個人情報保護についての教育を行い、全職員が理解している。名前の呼び方も含め、一人ひとりの人格や誇りを傷つけないような接し方をしている。	基本理念と運営方針に基づき、日頃より個人の尊厳と心を通わせる介護を目指しており、接遇や言葉かけには注意している。年間を通して勉強会や外部研修で個人情報保護も含め学んでいる。特にトイレ誘導や失禁に関する接し方にはさりげない対応を心がけている。書類の管理は人目につかない棚で管理している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行事・アクティビティへの参加や入浴等の日常生活に関しても、本人の意思を確認・尊重するように心がけている。日々の暮らしの場面でも、入居者の意思の確認や自己決定を引き出すような支援を行っている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の体調や精神状態に配慮し、入居者の居心地のよい環境づくりを行い、本人の希望に沿って、一人ひとりのペースにあわせたケアを行なっている。外出や行事の際にも、個々のペースに合わせた支援を行っている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人のこだわりのスタイルを把握し、その人らしさを保てるよう支援している。また、希望に応じて化粧やマニキュア等、おしゃれをする機会を設けている。起床時は、パジャマより洋服に更衣してもらい、ブラシを渡すなどして、髪を整えるよう促している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員と一緒に準備や食事、片づけを行なっている。また、それぞれの食べる力に応じた形態の食事を提供することで、誰もが食事を楽しめるようにしている。誕生会や行事等で、一緒にオヤツを作る機会を設け、季節感を楽しむようにしている。	食事の準備や片づけと一緒に出来る利用者が少なくなり、要食事介助者が増えてきているため、全職員と一緒に食事することは難しくなってきた。朝食とおやつは事業所で作り、個人の嗜好を反映させるよう努め、朝食は同じ食事を一緒に食べている。昼・夕食は母体法人で作られ提供されており、職員は同じテーブルでそれぞれの弁当を食べている。	



項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるように、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事摂取量・水分摂取量をチェックし、その人に合った食事量の提供及び水分摂取の促しを行っている。むせ込みの強い入居者には、トロミをつける援助をしたり、お茶ばかりではなくジュース等で水分量を確保している。また毎食前には、口腔・嚥下体操を行い、摂食・嚥下機能の低下の防止に努めている。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、口腔・舌の状態の観察を行っている。認知症の状態、うがいがスムーズにできなくなってきた入居者には、歯磨き粉なしで歯磨きをしたり、スポンジ歯磨きを使用し、入れ歯はポリドントにて洗浄している。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心に配慮しながら、排泄の誘導・介助及び失禁等の対応を行なっている。また、排泄チェック表にて一人ひとりの排泄パターンを把握し、できるだけトイレでの排泄ができるように、声かけ・誘導や身体能力に応じた介助を行なっている。本人の状態に合った紙パンツ・パッド等を使用し、できるだけ減らすように努めている。	排泄チェック表があり、職員は利用者一人ひとりのパターンを把握しており、なるべくトイレでの排泄を支援している。睡眠誘導剤を使用している利用者が同じ時間に失禁するので、与薬時間を変更することで、朝まで失禁することなく改善できた例がある。利用者の排泄に関する支援がきめ細かく的確にできている事例である。	
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状態を把握し、必要時には下剤の使用や、腹部マッサージを行い、自然排便に努めている。また、適量の水分摂取と、毎日の体操への参加を促している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	本人の希望を優先し、プライバシーに配慮しながら個浴にて一人ひとりゆっくりと入浴できるように支援している。バイタルチェックを行い、変化がある場合には、清拭・足浴等を適宜行っている。	入浴は日曜日や祝日を除き毎日入浴でき、週2～3回が平均的回数である。入浴拒否の利用者の場合は時間帯や介護者を替えたりしながら、誘導するようにしている。足が冷える利用者が2名おり、毎日足浴を実施するなど状態に合わせた対応を行っている。季節ごとに菖蒲湯やミカンの皮の湯なども楽しんでいる。	日・祝日も入浴の準備をしていただき、利用者の希望があれば対応できるような取り組みを期待したい。
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムを把握し、場合によっては家族・医師等と相談して睡眠や食事・薬剤のあり方について、全体的な調整に努めている。眠れないときは、温かい飲み物の提供や添い寝・話し相手などの支援を行っている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に薬剤情報を添付し、また現在服薬している薬のチェック表を設け服薬状況を把握し、ミーティング等で情報を共有している。日々の服薬にも、複数の職員によるチェックやチェック表の使用で、ミスのない確実な服薬支援に努めている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	普段の会話の中から、本人の出来ること・楽しみ等を把握し、一人ひとりの気持ちや力を活かした場面作りに努めている。また茶わん拭きや洗濯物たたみ等、生活リハビリや、誕生会・おやつ作り等、楽しみ事に取り組んでいる。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や健康状態・本人の気分等を考慮して、散歩等の外出を行なっている。また、近くの学校の運動会や神社のお祭り・花見・展覧会・みかん狩り・外食などに、家族の協力を得ながら外出を支援している。本人の希望により、家族と共に墓参りに出かけるなどの機会も設けている。	介護度が進み、車いすの方も増え、開所当時のような頻度ではなくなっているが、散歩や買い物の希望があれば月2～3回は行っている。ドライブや外出は月に1回程度春・秋の花見など実施している。外食も季節の良い時には近くのファミリーレストランに行くことがある。隣の高校の体育大会には毎年招待され参加している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる能力を有する入居者には所持してもらい、また管理が困難な入居者に関してはお小遣いを預り、お祭りやちょっとした買い物等の際に自分でお金を使えるように支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、家族等に確認した上で、プライバシーに配慮しながら本人が電話できる様に支援している。年賀状などの季節や行事の便りを出すことも支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室にコタツを置いたり、フロアに観葉植物を配置することで、入居者が落ち着ける環境づくりをしている。また、居場所作りとして、ソファ等配置に気を配ったり、庭に咲いた花を生けて季節感を出すなどの工夫をしている。ベランダには季節の野菜を植え、入居者に収穫してもらい、食卓に出している。	全体の居住空間が広く、床は艶のある黒っぽい素材で非常にグレードが高く贅沢な空間である。4～6人が使用できるテーブルが4セットあり、ソファや畳の空間もある。利用者の作品なども飾られ、床に置かれた花瓶や花なども相まって良い雰囲気を作っている。職員が野に咲く花や家庭で咲いたものを飾り季節感を取り入れている。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやダイニングテーブルなど、全てが職員の視界に入るようにし、入居者個々の過ごし方を見ながら、ゆっくり過ごせる場所へ誘い、個々に応じた居場所作りを行なっている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者本人・家族と相談し、使い慣れた寝具・家具・思い出の品・写真など、人生史や生活習慣を大切に、その人らしい居室作りに努めている。また、寝たきりに近い入居者には、部屋でテレビを見たり外の風景が見れるようにベッドの位置を工夫している。	居室は非常に広く、ベッド以外はほとんどが個人の筆筒や椅子が持ち込まれている。広い空間のため、これまで使っていたものより、居室に合わせて新しいものを買ってきた方が多い。とてもきれいに片付けられており、家族写真や孫の写真、思い出のものも多く持ち込まれている。家族が来訪しても十分にくつろげる空間である。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの環境の中、過度な介助をせず、行動を抑制しないように注意しながら、活動性を維持する生活の場として支援している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		① ほぼ毎日のようにある
			○	② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		① 大いに増えている
			○	② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない